

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

令和5年12月25日

事業所名 発達サポート being

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		基準を上回るスペースを確保している。 屋外スペースも十分にある。	
	2	職員の配置数は適切である	○		基準を超えて配置している。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		パーテーション、個別の机等の配置。	障害種や発達年齢に関わらず、どんな子どもにも分かりやすい環境構成に留意して、活動に応じた「場所」「時間」「活動」「視覚的」な構造化を充実させたい。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		毎日2回のミーティング 月1回の定例会 年1回の職員全日研修を開催している。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			調査結果をまとめ、会議や研修を行い次年度からの業務の改善に繋ぐ。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○			評価機関による第三者評価は実施しない。 理事・幹事、有識者による評価を年1回実施する。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		事業所内研修実施。外部研修の案内。研修費補助を行っている。	
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		行動観察等のインフォーマルアセスメント、標準化されたツールを使用するフォーマルアセスメントを公認心理師が実施し、児発管が支援計画を立てている。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○			
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○			
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		集団個別活動を環境調整により実施している。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		1日2回のミーティングを実施している。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			支援終了後に全スタッフが集合することが難しいため、翌日のミーティングで情報を共有している。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		写真の記録を活用している。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		3役会(児発管、主任、心理師)で行うようにしている。	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○				

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		対象児担当スタッフや心理専門職も同席できるように柔軟に対応している。		
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		送迎時のトラブルの際には、直ちに事務局に電話を入れることを徹底している。	送迎計画から当日まで二重三重のチェックシステムを設けてミスの予防に努めている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	/	/			
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○				
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○		就労を視野に入れた支援を実施している。	就労に関わる適切性を標準化された評価表を使用して心理専門職がアセスメントする。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		○		他専門機関より、時折情報提供を求められることはあっても、それに対するフィードバックが得られない。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○		積極的には考えていない。	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		○		地域の研究会に毎月参加している。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		療育参観、面談はいつでもできる旨を保護者に伝えたり、面談希望を募ったりしている。		
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○		ペアレントトレーニングを実施している。	参加しやすい簡易版から本編まで、3種類のペアトレ実施が可能である。保護者のニーズに合わせて活用する。	
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			公費で賄う費用と実費負担を詳細に記載した文書を使って契約時に説明をしている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		いつでも相談できることを保護者に伝えたり、面談期間を設けたりしている。		
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		ご家族で参加できるイベント、参観日、勉強会を実施している。	参加が少ないため、内容や時期の検討を行っている。	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○				
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		ニュースレター、行事案内を紙媒体で発行している。		
	35	個人情報に十分注意している	○			全スタッフで徹底に努めたい。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○				
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		近隣にお住いの方を招待するイベントを年に1回実施している。		

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		<ul style="list-style-type: none"> ・HPで公表している。 ・全員が訓練を受けられるように、全ての曜日で実施した。 	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○			
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		○	保護者に状況と対応を聞いて備えている。	必要に応じて医療機関と連携する。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			